

# 有明高専だより

第48号  
有明工業高等専門学校  
〒836・大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944 53 1011  
印刷・重富オフセット



## 新年講話(抄録)

校長 吉村虎蔵

### 一、技術創造へのアプローチ

工業教育には Engineering Technology、Engineering Science の二つの面があり、前者を高専が、後者を大学教育が主な目標としているといえます。諸君に門戸が開かれている豊橋と長岡の技術科学大学はその両者、技術科学を大学名に冠しているものと解されます。さて技術・科学分野での日本の独創技術の件数は国際的に見ると極めて少なく、例えば自動車、テレビにしても外国で発明され、これに日本が手を加えて、安価で汎山輸出し、国際市場を荒しているといつても過言ではありません。これから将来、独自の技術の開発なくしては、日本の発展は期待できない、と多くの識者が声を大にして叫んでいることは周知の通りです。本校卒業生の就職先、この春卒業予定者の就職内定先をみてもそれらは若い諸君の創造性に期待をかけている企業ばかりです。そこで、まず「新しい技術創造へのアプローチ」「創造へのプロセス」について話してみたい、段階を三つにしぼります。

その第一段階は Inspiration です。直感、頭のひらめき、アイデア・発想の意です。第二段階は Observation です。技術の分野では、実験・理論的解析・調査などを指します。第三は、帰納です。新しい技術の開発はこの三段階を必ず経るものです。高等学校のころ、私はいくつかの科学概論の本を読んだ中で、「Introduction to Science」という小さな本でこの三つのことを読みました。以来このことを頭の中に入れておいて来たから、諸君も容易に理解できると思います。

ところで、第一の素晴らしい「直感」には、日常の、長年月の訓練が必要で、ほんやり考えているだけではいい直感生まれません、事象に対して、科学的技術的物の見方・考え方、広い視野の養成が大切であります。第二の「実験・解析」などについては、諸君は基礎的な訓練をすでに学校で初められているので、直感が生れても実験や解析の能力が不足では、そのアイデアを育てることができません。この場合、解析結果を実験で確かめることもあり、その逆のこともあ

す。

新年の技術関係ニュースとして三池鉱業所の無人採炭法の実用化、鹿児島企業のセラミックエンジンの実用化が目につきました。前者は新工法の開発、後者は新材料による新しいディーゼルエンジンの開発です。また、工法・材料・解析理論の三者の進歩が相まって発展するものに橋梁工学があります。機械・電気・工化・建築の各分野でも、特に学際的分野で色々の開発テーマが無限にあることと、思います。

### 二、日常生活での「心の持ち方」

年末に「思いやり」と題して、本校学生の明るい善行のニュースのいくつかを、また、大牟田荒尾地区の最高学府学生として小中高校生の模範となるように期待をかけていられる地域の方々の、一部学生の行動への批判をいくつか紹介しました。両者は、思いやりの心の有る無しによる対照的な例でありました。一中学生の秋市での心暖まる事件に因連した五百円札の話も思い出して欲しいでしょう。

「思いやり」「ゆずり合い」「感謝」「人に迷惑をかけない」などの心が、日常生活に大切に、これ

らすべては「周りの人を大切に」の心に包含されます。「周りの人」とは、道で交う見知らぬ人、車で交う人、先輩・同僚・後輩・家族の人などすべての人を指します。バイクの速度、バイクの無断放置、一部の下宿学生の行動などは、如何なものでしょうか。

「周りの人を大切に」の心はまた、日常生活での挨拶とマナーの基本にもなります。「ありがとう」「お先にどうぞ」、「くろろさん」「お世話になりました」「すみません」などの言葉が自然に素直に口から出、態度に現れるように、日常心掛けてほしい。自己中心の考えの人、自分のことだけで頭が一杯の人と「他人を大切に」のゆとりある心を持った人とは天地の差があることを銘記すべきであります。

以上二つの小論は、全く異質のもののようにありますが、「これからの技術と人間」を考えるためにも、その糸口となると思います。物質の豊かさの中におぼれて無反省で生活する最近の社会で、失われつつ、あるのは、人の心、人の情(なまけ)と思うからです。

(五七・一八)



文化講演

「己に克ちて礼に復る」

北御門二郎氏 大正二年生。熊本中学、五高を経て東大英文科に入学。爾來、四十年間トルストイ研究に打ち込み「戦争と平和」...

い衝撃を受けた。以来「イワンの馬鹿」を始め次々とトルストイに没頭、人間が生きているという問題に對する彼の考え方に感動を覚えた。東大での授業もおよそ自分の理想とは程遠く、次第に劣等生になつて行った。その後、兵役拒否という形で自分は社会の異端者となつた。

冊数を競うのでもない。心をこめて読むということ、これが教育の根本でもある。又、教師自身も徒然草「第13段にあるように讀書の体験を体得していなければ生徒には通じないだろう。」

「己の欲せざる処を人に欲する事なかれ」というように、我といふものを克服し、他を自分の事と同じように思いやるという心であり、最敬礼をしなければいけないという様なものではない。この誠実と思ひやり、これこそ礼の根本であり、この忠恕の精神にのっとりて今後如何なる世界が将来しようとも判断を誤つてはならない。歴史的に見ても人権を蹂躪しなかつた戦争はなかつたのだ。

「産業用ロボットについて」 安川電機製作所 安部凱憲氏 ロボットという鉄腕アトムのように、SFやマンガなどの夢の産物として親まれていた。しかし今日産業界でブームとなつてきている産業用ロボットはアトムとはどこか類似点はあるものの、大分かけ離れたものとなつてきている。その意味でわざわざ「産業用」ロボットと呼んで区別している。

「人間と同じ夢をもっているが産業用ロボットはこの夢の中で生れ育ってきたものである。つまり「人間により近い自動機械」人間の動作をまねできる自動機械」これが産業用ロボットである。したがってNC旋盤はいかに自動化が進んでもロボットとは呼ばれない。このことを先 displays した関節形ロボットについて考えてみると、一つはちょうど人間の片腕の動作「前後・上下・左右」に手の動作をまねることができることであり、もう一つは制御方法としてティーチング・プレイバック方式を用いていることである。産業用ロボットが技術導入によつて我國で始めて作られたのは昭和四十三年のことである。ちょうど高度成長時代となつたので、「なんでもできる夢の機械」として大変な期待がよせられてブームとなつた。しかし実際に使用してみると意外にも従来の自動機械よりも劣ることが判つて伸び悩んだ。これに対し今回の第二次ブームは前回の浮ついた先入観が受入れ側になくなつてきていること、ロボット自体も技術的に成長したという背景に裏付けされて、産業用ロボットが生産設備としてつきりと定着し始めた点に特徴がある。現在、世界の中でもっとも多かつた上手に産業用ロボットを使用している国は日本であるといわれている。適用分野では自動車用ロボット溶接ロボットがもっとも多く、アーク溶接ロボットと塗装ロボットがこれに続いている。その他の分野ではまだロボットが作業にあわせ得るまで成長していないこと、逆にいうと作業がロボットに合った状況になつていないために進出がはかばかしくなっている。つきに産業用ロボットの技術や構成要素について述べる。まず重要なのはサーボ技術であつて、たとえば10mm行けと指令されたら、ロボットの腕は100.00mm動いてきちんと停止しなければならぬが、これを実現するのがサーボ技術である。つきに重要なのはバックラッシュのない高精度の減速機、細くて大電流が流せかつ丈夫な電線、ロボットの腕に所定の動作を確実に実行させるための軽いが剛性の高い合金などで、これらの開発が重要な課題である。さらに制御装置の心臓部であるマイコンの急速な進歩に対応して、それに追従できる有能なソフトウェア技術者の確保もきわめて重要となつてきている。さらに現在の産業用ロボットにはまだ目がついていないが、これでは危険なこともあるのでパターンの認識技術を用いて目をつけるという研究が進んでおり、五年位先には製品化されるであろう。目がつけばロボットは人間のように状況に応じた行動がとれるようになるであろう。このようにサーボ技術や各種部品、材料、マイコン、パターン認識など、各種の最新技術が集合されてこないと、産業用ロボットはこれ以上の進歩は望めず停滞してしまふと考えられる。最後にもう一度まとめてみると産業用ロボットとは、各種の高度な技術を結集して形態や内容は複雑とはなるが、生産技術者がこうしたいと思つている願望を寄せ集めて大きな夢を曲くることができるといふ生産設備である、と定義できると考えている。(文責 須藤)

機械工学科

- 榑木 茂良 コピア
荒木 隆 ロレレバンクマシン
岩本 利雄 日立造船
江口 和博 ラサ工業
江藤 忠人 竹中工務店
大串 克拓 大橋商会
大村 義隆 昭和鉄工
小島 良一 日本オイルシール工業
堀山 研士 荏原製作所
川原 英司 トヨタ自動車工業
草野 伸介 高砂熱学工業
古賀 弘敏 日本電装
児玉 一志 アポロ電子工業
小宮 勝行 東洋工業
小柳 智秀 三洋電機
齊木 良治 本田技研工業
坂口 正義 日産ディーゼル工業
志賀 義治 東京芝浦電気
執行 義之 西日本プラント工業
嶋村 美智広 新日本製鉄
田中 博成 三菱重工業
田中 勝 ユニチカ
田中 義浩 三菱冷熱工業
寺崎 尚徳 安川物流
富安 一宏 神鋼電機
富安 美樹 富士写真フイルム
富安 道裕 旭精機工業
永江 道裕 キヤノン
橋本 克也 いすゞ自動車
橋本 博文 東洋サッシ工業
花田 滝生 東洋精工
平川 宏 川崎重工業
福留 正裕 富士通フアナック

電気工学科

- 堀 裕二 三井鉱山
松本 英喜 三菱電機
村中 真澄 日立電子
近藤 治彦 三菱電機
坂田 明宏 トランスミッション
木村 隆広 安川エンジニアリング
工藤 信幸 日本電気ソフトウェア
幸田 幸洋 九州電気工事
近藤 晋一郎 日立サービス
堀山 研士 エンジニアリング
川原 英司 三菱電機
草野 伸介 トヨタ自動車工業
古賀 弘敏 日本電装
児玉 一志 アポロ電子工業
小宮 勝行 東洋工業
小柳 智秀 三洋電機
齊木 良治 本田技研工業
坂口 正義 日産ディーゼル工業
志賀 義治 東京芝浦電気
執行 義之 西日本プラント工業
嶋村 美智広 新日本製鉄
田中 博成 三菱重工業
田中 勝 ユニチカ
田中 義浩 三菱冷熱工業
寺崎 尚徳 安川物流
富安 一宏 神鋼電機
富安 美樹 富士写真フイルム
富安 道裕 旭精機工業
永江 道裕 キヤノン
橋本 克也 いすゞ自動車
橋本 博文 東洋サッシ工業
花田 滝生 東洋精工
平川 宏 川崎重工業
福留 正裕 富士通フアナック

工業化学科

- 山口 通広 九州サービス
山崎 和生 日立メデイコ
浅井 篤 保谷レンズ
井上 勝基 丸大食品
井上 嗣規 日本ベイント
加治屋 篤 日本オイルシール工業
金子 洋 三井製薬工業
清田 伸也 熊本凸版印刷
黒山 時房 三井鉱山
木場 雅治 チソン石油化学
小宮 良一 旭化成工業
境 健 チソン石油化学
坂口 和浩 フジコー
志水 伸二 日本ビクメント
下司 秀樹 大日精化工業
関 英樹 電気化学工業
高山千栄子 理学電機工業
田代 恵子 大洋電機研究所
田中 和浩 大日本インキ化学工業
田中 啓典 日本電気ソフトウェア
鳥越 照久 日本電気ソフトウェア
中村 信之 三田工業
西山 猛郎 日産ディーゼルス
野田 敬一 北辰産業
橋口 由美 大日本インキ化学工業
広田 智治 ダイキン工業
深浦 光代 小林コーゼー
藤丸 昇一 日東電気化学
藤本 昭一 吉川製油
古庄 浩 豊橋技術科学大学
前田 重徳 九電産業
前田 博子 大日本インキ化学工業

建築学科

- 松藤 誠徳 非破壊検査
宮地 貴子 高森興産
森 一富 旭化成工業
森 寛信 日本科学冶金
山本 博文 井上ゴム工業
箭竹 剛 三田工業
吉田 康子 富士通第一通信
若松 靖章 ソフトウェア
松尾 勝司 東海リース
安部 信也 日本国有鉄道
安部 泰夫 今西組
池内 泰夫 松尾建設
井上久州夫 柄谷工務店
猪口 英敏 三井ホーム
今村 利弘 ユニチカ
上田 清 東急建設
梅野 一徳 佐藤工業
小形 伸治 アイサワ工業
岡野 公嘉 自営
小川 敬二 飯田工務店
小川 徹也 三和シャッター工業
小川 義人 小山田義人
貝田 勲 大阪電気暖房
木山 誠 三機工業
古賀 禎樹 三機工業
木場 盛雄 日本電信電話公社
小宮 克己 大崎建設
酒見 宏祐 総合建築設計研究所
下田 英夫 菱和調温工業
高巢 義博 北野建設
宝部 勝彦 新井組
田中 洋信 住友建設
角田 清二 第一建築
鶴 晴樹 日立造船

就職内定状況
求人倍率
求人総数
求人会社数
希望者数
希望者職
就業者数
卒業生数

Table with 7 columns: 学科名, 卒業生数, 希望者数, 希望者職, 就業者数, 求人総数, 求人倍率

昭和57年3月 卒業予定者の進路

57年2月1日現在

Main table listing graduates and their career paths across various disciplines like Mechanical, Electrical, Industrial Chemistry, and Architecture.



特集

情報処理教育

電子計算機の出現以来約四十年、その発展は目覚ましいものがあり、社会の広範な分野に使用され、最近ではパソコンと呼ばれる個人用のマイクロコンピュータも多く使用されるようになった。

本校における情報処理教育は、各学科とも早くから重視、実施されてきたが、演習用の電子計算機を有せず、ミニコンピュータを用いる方法、校外の電子計算機の借用等の方法による小規模の演習を実施せざるを得なかった。昭和四十九年五月待望の電子計算機室が開設され、FACOM 二一三〇、二五システムの導入により、本格的な情報処理教育が開始された。



学生の電子計算機に関する関心も高く、電子計算機室を演習課題以外の自発的利用のため訪れる学生も多く見られるようになった。事務処理としては昭和四十九年後期より、筆者による学生の成績処理が発足し、次いで多くの事務処理が行われ現在に至っている。この間、電子計算機

室の要員が高専においては認められず、オペレータとして、各学科および事務部の奉仕的輪番制による応援によってオペレーションを行って来た。室員は室長一名、パッチャー二名の二名で発足し、その運営は電子計算機室運営委員会の審議を経て行われて来た。

要であるが、昭和五十四年当時、更新された高専はなく、その実現はなお年月を要すると思われた。このため、比較的实现可能と思われるミニコンピュータを導入することに、若干の改善を行うことを企画した。この場合、時間制の緩和策としてTSS方式をとる、各学科棟よりの使用が可能であること、利用対象が卒業研究、研究であることより、最新のコンパイラ言語FORTRAN7を用いるものとした。

このシステムを教育用データベースとして、昭和五十五年の特別設備として、予算の要求を行なった。図らずも、校内の方々の御協力により、昭和五十五年度予算化され実現することとなった。更に校内の協力を得、図1のシステムの導入が決定された。

Table with 4 columns: 学年, 機械工学科, 電気工学科, 工業化学科, 建築学科. It shows the schedule for information processing education across different departments and years.

第1表 情報処理教育関係カリキュラム



カフェテリア室

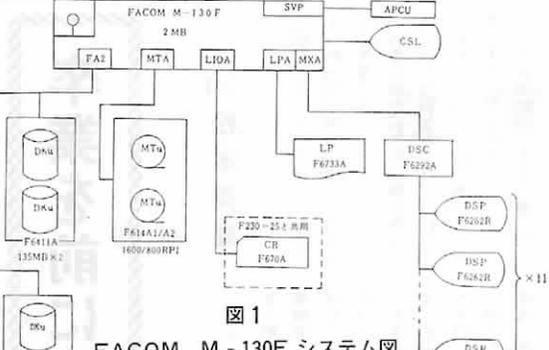


図1 FACOM M-130F システム図

度の特別設備予算(約六百万円)により主記憶を倍増し、磁気ディスク35MBの増設が今年度中に完成する筈である。また端末は一筆に十一台となる。これにより画期的情報教育の改善がなされるものと期待している。

情報処理カリキュラム 本校の情報処理教育については、各学科において夫々独自の計画、実施され大きな成果を挙げている。第一表に情報関係のカリキュラムを示す。ソフトウェア教育は出来る限り早期に実施すべきであると言われ、若干低学年へ移行すべきであると思われる。この問題については今後の研究に期待したい。また言語については、現在不満足はないが、市販のテキストが追従で来ていない状態にあり、本校独自の補助テキ

ストの複製も要望されており、研究して行く心算である。 マイクロコンピュータ教育 約十年前開発されたマイクロコンピュータは、産業界の各層に広く使用され、旧小型コンピュータの性能を凌駕するに至り、工業系の基礎科目として採用されるべき時期にあると考えられる。電気工学科の選択科目として今年度より、ハードウェア中心の講義を本校においても開始したが、他高専においては、実習設備を充実し、全国的にマイクロコンピュータ教育に取り組まれている学校もみられる。本校のこの関係の発展を期待したい。

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

電子計算機室は、教官、学生の要であるが、昭和五十四年当時、更新された高専はなく、その実現はなお年月を要すると思われた。このため、比較的实现可能と思われるミニコンピュータを導入することに、若干の改善を行うことを企画した。この場合、時間制の緩和策としてTSS方式をとる、各学科棟よりの使用が可能であること、利用対象が卒業研究、研究であることより、最新のコンパイラ言語FORTRAN7を用いるものとした。

図2. モード遷移

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

電子計算機の将来展望について 昭和五十六年度、三高専の電子計算機が更新され、漸く新システムの導入が始められた。これらのシステムと本校のシステムと比較すると、予算額において当然ながら大幅な差があり、電子計算機の急速の進歩を考え主システムの更新について研究を開始すべき時期にあると思われる。本校の新システムにも、XYプロッタ、通信制御装置の不足、計算速度の問題もあり、電子計算機室としては今年度増強されたシステムの完動を待ち、これ等の問題に対する対応を研究する心算である。

図3 実施例

A complex block containing a flowchart for mode transitions (Figure 2), a list of FORTRAN code snippets (Figure 3), and a table of course schedules (Table 1).

# 卒業を前にして

5M 松本英喜

昭和五十二年、四月に入学してもう約五年が過ぎ、後二ヵ月ばかりで卒業である。

高専生活の五年間を振り返るといろいろな事があった。どれも、これも、ついこの前の事であったかのように思われる。

この五年間で、まず一番に思い出すことは、三年生の時、自動車工学部で、FJを製作したことである。高専祭までに間に合うように、毎日毎日、夜遅くまで、学校に残り作業したことは、とても辛かった。「もう、やりたくない」と思ったこともあった。しかし、その時の苦しさや辛さも、今になってみると懐かしさを感じている。やってみると良かったと思っている。やはり、何かを一生懸命やってみると、辛いことであっても、後で思い出してみれば、それはそれなりに良いものである。

そして、これから先、いろいろな困難な事があるかもしれない。そんな時に、その辛い事や苦しめた事を思い出して、何とか、自分で努力しようと思っている。

今は、高専最後の思い出としてまた勉強の面の思い出として、卒業研究を一生懸命やって、何かすばらしい結果が出るように頑張りたい。

全体的に見て、自分の高専生活は、まず自分の思い通りに過ごせたと思う。多くの友人に出会うことができたし、適度に勉強し、適度に遊ぶこともできた。

一月中旬に、授業で「人生とは何か」また「これから自分がしたいこと」についてディスカッションを行なった。自分は発言しなかつたけれど、次のようなことを考えていた。

まず、就職したら自分なりに一杯努力し、少々の辛い事には耐えなければならぬということ、また、年に一回は故郷に帰ってくるようにすること。

最後に、ただ一つだけ、交通事故で学友を失うという悲しい思い出が残ったことを非常に残念に思っている。

いろいろな御指導をいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

\*\*\*\*\*

5E 北島和浩

五年間、長いようで短いものだ。今振り返るとそう思う。昭和五十二年の四月、期待と不安の中で入学した当時、五年間というのは途方もなく長く感じられた。それが今は五年生、学生生活も残すところあとわずかとなってしまつた。

この五年間、何をやらうとしたか、そして何をやりとげましたかと自分自身に問いかけてみる。すぐには答えが出てこない。あ、なんて自分は消極的な生活を送っていたのだらうと反省する。高校生と違つて大学入試もなく、かなり自由な時間があつたのに、人は、豊富に与えられたものに對してありがたさを忘れてしまふのだらうか。残り時間がわずかとなつてしまつた今だからこそ、このことが余計に実感としてわいてくる。

以上は、五年間試みてみての一番の反省点であるが、そういうことばかり頭に残っているわけではない。例えば、クラブ活動を五年間続けたことは、肉体だけでなく精神の鍛錬にもなり、自分自身にプラスとなつたし、学年を越えてつなげることができたこともよかつた。また、学校行事である体育祭、球技大会などでは、みんな真剣に競技を行なつていたので、こちらもファイブを燃やさずにはおれなかつた。これらのことは、青春の思い出のページとして私の心に残るだらう。

もうすぐ我々はこの有明高専を去り、それぞれ違つた道へと進まなければならぬ。この道は、決して容易なものではないだらう。だが、失敗を恐れず積極的に行動し、自分の目標に向つて一歩一歩前進して行きたいと思う。二度とない人生なのだから。

5C 前田重徳

五年前、この有明高専を受験する時、「ぜひともこの学校に受かり、そして将来は……」などという大志を抱いていたわけではなかつた。学校教育法に明記されているという高専の目的である「深く専門の学業を云々」といつた事は知りもしなかつたし、考えもしなかつた。要するに、普通の高校を受けると同様の気持ちでこの学校を受け、幸運にも合格し通うようになった。そして、今やつと卒業にまでこぎつけたのである。この五年間、自分は、いったい何を学び、何を考えてきたのだらうか。人間には様々な価値感がある。そして、その価値感に従つて物事を感じ、考え、行動するが、自分は「自己の成長」をその第一に置きたい。急になる事もないことともやつたし、何もやらないこともあつた。しかし、それら過去の

すべては良くも悪くも現在の自分を形成するための養分になつたと思う。そして少しは成長したであらう自分がここに居る。過去から現在までの自分を見つめ直し、現在から未来への自分を夢見て、「自分が何であるか」を考え、見はてめ理想を目標として行く。もちろん、この社会には人間が人間らしく生きるためのルールがあり、このルールには従つて生きるのが当然である。しかし、「人のため、社会のため」というのは、あくまで成長の過程で世に現れた一つの結果だと考えるのである。

一生のうちで最も多感な数年をすごしたこのでの生活は、以上の意味で非常に意義のあるものだったといえる。おそらく将来においても、ここで得たものが基礎となつていくに違いない。このことを卒業にあたって我学舎有明高専に深く感謝するものである。

5A 吉田豊美

「有明高専に入学して良かったと思ひますか？」  
この手の質問に、私は五年間、幾度も出くわして来た。というのは、四十数名のクラスの中に女子一人という私の境遇は、確かに珍らしいものだったからである。  
私はこの質問を受ける度、こう答える事にして来た。  
「それは卒業する迄、判らない事です。」

私は自分自身の理想に向かつて、未来に向かつて走り出さなければならぬ。たまらないほど不安な実社会に向かつて走る。失敗を恐れてはならない。そうしなければ、自分自身の底からの革命は、いつまでも、できないと思う。

です。」私は、辛い苦しい立場であらう自分を自覚したくはなかつた。悲観的になる様な感情は常に押し、できる限り未来の自分に夢を繋いでいたかつた。  
そして今、卒業は私のすぐ目の前に迫つてきている。私は改めてあの質問の答えを出そうとした。しかし、私にとつての有明高専は、どうしても良し悪しでは決められないのだ。  
五年間、ただ只管に盲滅法やつて来たと思う。それ故に失敗も多く恥しく情けない思いもした。けれど後悔の念はない。自分の力を出し切つた上での失敗は、失敗でない何か新しいものになつた。前向きであるという姿勢、全力を尽くすという行ないが、どんなに自分の救いになるものかを、今改めて確信している。

有明高専での学生生活は、私にとって、あらゆる感情の堆積のごときのものである。  
一生、忘れようとしても忘れられないであらうと思う。しかし、今の私は思い出し浸つてばかりはいられないのだ。  
私は自分自身の理想に向かつて、未来に向かつて走り出さなければならぬ。

たまらないほど不安な実社会に向かつて走る。失敗を恐れてはならない。そうしなければ、自分自身の底からの革命は、いつまでも、できないと思う。

昭和五十七年 2月20日

# 教室通信

## 機械工学科

- ◎石川高啓君43機 ◎857 佐世保市若葉町27の13
- ◎井上品夫君44機 ◎581 八尾市旭ヶ丘ハ34-2旭ヶ丘ハイツ305号
- ◎平山栄一君44機 ◎227 横浜市緑区藤ヶ丘2-41-16
- ◎米田徳光君44機 ◎983 仙台市台原6丁目5の5
- ◎山口 収47機 ◎664 伊丹市中野北4丁目1・2棟103号
- ◎平山茂雄君50機 ◎733 広島市中区十日市町2丁目1-33 セントラル瀬戸内5F
- ◎加藤則光君(旧姓池田)50機 ◎312 勝田市市毛663 筑波台アパート10棟107号
- ◎尾上昭博君52機□結婚 10月12日 新婦かず子さん(旧姓市川) おめでとうございます。◎443 愛知県蒲郡市三谷町川原25-2
- ◎段本正二郎君53機□転職 キャノン(株)生産工機部機器設計室(149 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 TEL03-758-2111 ◎140 品川区大井2-15-3 加々見様方 TEL03-773-372
- ◎乗富正則君53機□転職 空研工業(860 熊本市本荘4丁目1-16 TEL・0963-72-6755 ◎862 熊本市本荘町田迎57-3 徳本アパート 田迎町
- ◎鶴 大二郎君55機 ◎892 鹿児島市吉野町2430-10
- ◎14回生新年会。1月2日大牟田市内で立原慎二君、福山敏行君の幹事のもとで盛大に行われました。参加者は、卒業生23名。石崎、木村、木本、川崎の諸先生、岡村嬢も参加されました。
- ◎11回生新年会。1月3日、ガーデンホテルにて。川西重義君ほか17名が参加。田口先生が参加された。仕事の方は一応落着き、ぼちぼち結婚でもと考えているころのようです。

## 電気工学科

- ◎学校来訪者 堀正広君50電、中川祐一君、山畑一郎君、徳丸俊昭君52電、矢ヶ部喜俊君、郷孝司君54電、加治屋弘君、樋口雅之君、奥下文夫君、田島新治君、近藤秀行君55電、太田明範君、大跡伸一君、松山孝幸君、吉永清人君56電、甲木茂也君52電
- ◎以下の方に住所が変更がありました。
- ◎大跡伸一君56電 名古屋守山区南島4 安川電機 守山寮 TEL 052-792-0389
- ◎松山孝幸君56電 福岡県行橋市大字長江安川電機 長江寮(昭和57年4月20日以降)
- ◎太田明範君56電 〒573 大阪府枚方市北中振3の30の18 松善寮
- ◎昭和55年卒の同窓会が開かれました。(於・大牟田駅前寿司一) 出席者した人は次の通りです。加治屋弘君、前田正治君、樋口雅之君、坂本和昭、仲野秀明君、堤豊君、奥下文夫君、松本寿徳君、吉富幸重君、吉賀啓一君、田島新治君 以上11名
- ◎昭和56年卒新年会がありました(於・大牟田市内) 出席者は、浜田先生の他次ぎの通りです。井上寧君、井上隆二君、浦野俊雄君、江崎浩秋君、大倉健裕君、大跡伸一君、木下博君、小柳博君、近藤秀行君、田代和也君、田中豊君、塚本章文君、月田俊介君、富吉正治、浜口豊君、藤本朽君、松本隆治君、松

- 山孝幸君、間々田直行君、構上秀徳君、森口薫雄君、高山尚木君以上22名
- ◎56年卒のみなさんへお願い 九州、関東地区の連絡係を設けて下さい。高、関西地区の連絡係は、樋口雅之君 (TEL・075-961-1218) 関電みなせ寮) となっています。

## 工業化学科

- ◎山田敬記君 50化 □結婚 新婦裕子さん(旧姓山添) おめでとうございます。◎591 堺市新金岡町2丁目5番4-104 TEL0722-54-0884
- ◎古巣典子さん 55化(旧姓寺岡) □昨年11月挙式、新郎修氏 おめでとうございます。◎531 大阪市大淀区大淀北一丁目9番14号 TEL06-458-7120
- ◎山口茂也君 47化 ◎811-142 福岡県遠賀郡岡垣町大字山田1072-93 TEL09328-3-2554
- ◎野田潔君 47化 □転職 NECソフトウェアAKK ◎230 横浜市鶴見区岸谷4-16-15
- ◎篠崎武樹君 49化 □三井東圧K K彦島工場より出向中 ◎Takeki Shinojaki Jordan Fertilijer Industry P.O.Box 409 AQABA JORDAN

## 建築学科

- ◎樋口稔君(50建) 昨年11月 日新技建1級建築事務所開設 ◎福岡市西区高取1-17-37-201 TEL831-1810
- ◎1/2 建築9期生(56建)の同窓会が「まるせ」にて開かれました。約20名の出席で吉岡先生が参加されました。
- ◎同じく1/2 建築5期生(52建)の同窓会が「ファイブ」にて開かれ、同窓生11名に松島、原田、新谷先生が参加されました。
- ◎1/15 渡辺信夫君(51建) 飯塚寿会館にて挙式。新婦は昭子さん。おめでとうございました。
- ◎1/15 国武正義君(54建) 久留米創世にて挙式。新婦は八千代さん。おめでとうございました。
- ◎1/24 古川善昭君(49建) 久留米パークホテルにて挙式。新婦は恭子さん。おめでとうございました。
- ◎福田雅人君(50建) □大日本土木機本社技術室勤務
- ◎藤崎正弘君(50建) □熊本市健康町2168-4 TEL81-8244 (株)山内工務店
- ◎原善章君(50建) ◎〒211 川崎市幸区占市場1-4 第一多摩川アパート202
- ◎中山正博君(54建) □〒150 東京都渋谷区桜丘30番7号 東菱ビル4F TEL03-463-2228 (株)R・S・K設計事務所 ◎杉並区和泉2丁目16-8 和泉ハイム208号
- ◎以下の方から教室に年賀状をいただきました。ありがとうございました。森尾省吾君(48建)、益田恵吾君(49建)、原善章君(50建)、古閑一誠君(52建)、江藤均君(55建)
- ◎学校来訪者(敬称略) 古川善昭(49建)、福田雅人、藤崎正弘(50建)、田中良親(55建)

### 学生会選挙結果

11月17日学生会選挙が行なわれた。会長は規定得票数を充たすことができず、上位二名による決選投票を11月21日に行った。結果は次の通り。

- 4A 川本 明信 一七五票
- 4E 東 誠一郎 一七二票
- 4C 松尾 良夫 一五九票
- 4M 木原敬一郎 一二九票
- 副会長
  - ④E 砂川 信雄 二五二票
  - ③A 植田 実 一八五票
  - 4M 柴田 雄二 一六七票
- 投票率 八八%
- 会長決選投票
  - ④E 東 誠一郎 二五九票
  - 4A 川本 明信 二〇〇票
  - 投票率 七〇%

### 学生会役員名簿

- 学生会長 4E 東 誠一郎
- 副会長 4E 砂川 信雄
- 同 3A 植田 実
- 書記 4C 松尾 良夫
- 同 4A 永宗 史郎
- 会計 4A 田川 英幸
- 同 3C 小川 素石
- 同 2A 渡辺 晴美
- 文化局長 4E 松崎 義和
- 体育局長 4A 木山 成福
- 報道局長 4M 梅崎 広之
- 渉外部長 4A 和田 清房
- 風紀局長 4M 木原 敬一郎

新執行部の活動はもうすでに二月を過ぎようとしている。今後の抱負等について、まだ細かいことまでは考えかねますが、とにかく現状維持ではなくまたひとつ前へ一歩踏み出すような活動を行いたいと思っています。

学生会の構成は、全学生にて成り立っているのですから、我々だけが走り回っても、空振りには終わってしまうのです。学生の関心が薄いと一概には言えません。むしろ一般学生の学生会活動への参加のための門戸が開かれていないのが実情なのだと思います。

が、いまひとつ、学生の活発な参加が欲しいところ。我々も、一般学生の学生会活動の参加の機会をもっと設けるつもりです。ですから、学生諸君も、私の活動に目を向けて、意見を出して欲しいと思っています。

### 『新学生会発足にあたって』

#### 学生会長 東 誠一郎

我々は、その様なことがないように、評議委員会については、その徹底に努めます。しかし、なにをするにしても学生諸君の協力なくしては、なにひとつ成し遂げられません。学生諸君の協力を熱く期待します。我々執行部員一同もチームワークで、学園内の問題に取り組み、より暮らしやすい学園にしていきたいと思います。

### 学寮だより

#### 寮長になつて

西堀浩文

寮生の数は、年々減少の傾向にありますが、寮生が、学校に及ぼす影響は小さくありません。例えば、新入生は、寮の団体生活の中で挨拶することを知り、通学生もそれを見て、挨拶することを覚える。また高専寮、体育寮等、学内行事も、寮生が中心になつて行なう場合が多いのです。この重要な役割を持つ、我々寮生の生活の場を司る寮自治会の運営は大変やりがいのあることですが、非常に難しく、責任も重大です。

後期から、『規律ある明るい寮を築く。』を今期の方針として動き始めたわけですが、いざ、実際の場面にしてみると、自分が、今まで、何となく理解していた寮とは、違ってきていること、また、今まで理解していたことでは通用しないことを、思い知らされます。ですが、私は、方針に従い、自治会の組織力を強化し、旧自治会の体制も、参考としながら、一つ屋根の下、同じ釜の飯、一つの風呂で生活している我々寮生各人が、ファミリー意識を持ち、みんな考え、みんなで解決する。そのよ

#### 寮生成人祝賀会

#### サッカー大会

わが寮明寮では、一月十七日、昭和五十六年度サッカー大会、成人祝賀会を行った。

サッカー大会は前日の寒さでトラックに霜が降り試合中ぬかるんで、すべったり、こけたりする者もいたが、そこは寮生の気遣いでカバーして、寮生全員、元気に走り回っていた。

優勝はBUNAN(銀杏棟4年生)チームであった。又、個人賞は、ナイスキーパー4A田川、得点王4A甲斐、フラインプレー4A川本、5A小川・山本さんであった。成人祝賀会は本校武道館にて、サッカー大会表彰後行なった。校長先生、寮務主事の御祝いの言葉、そして成人者を代表して出寮長5M草野さんから感想を述べてもらい、4年生による5年生の胴上げ、寮歌斉唱、万歳三唱で全日程を無事終了した。

成人者は次のみなさんである。小島良一、草野伸介、平塚博彦、平川孝司、安部信也、井上久州夫、今村利弘、上田清、小川敬二、小川田義人、木山誠、不場盛雄、高果義博、中地晴彦、藤崎剛、山本茂範、橋本知章。以上十七名。(記 体育局 木山成福)

- 寮長 西堀浩文 4C
- 副寮長 角田一誠 3E
- 総務 中満 修4M
- 会計 米田二男 4M
- 体育 木山成福 4A
- 中垣謙二 2A
- 早川慶一 1A
- 村嶋敏彦 4A
- 寺本直之 3A
- 富永龍志 3A
- 中島隆引 2A
- 永松 尚 1A
- 風紀 中津海無辺 4E
- 松田光晴 3M
- 浜田安夫 1C
- 整備 大石崇晴 4M
- 岩根有希 3M
- 美化 新谷秀生 2A
- 霧林清隆 1A
- 田川英幸 4A
- 松尾敏行 3A
- 吉松良知 2A
- 鳴本 篤 1E
- 厚生 竹下俊治 4A
- 北口健一 3C
- 出版 工藤 剛 2M
- 高木浩一 1A
- 和田清房 4A
- 山口正文 3A
- 福岡博之 2M
- 福岡博之 2M
- 写真 奥相秀一 2E
- 末松 茂 1E
- 竹下 圭 1C
- 杉村智高 1M
- 山本健三 1C
- 棟長 鎌水誠治 4E
- 銀杏棟
- 中地秋彦 3A
- 紅葉棟
- 西村秀夫 2A
- 青若棟
- 吉松良知 2A
- 若葉棟

## クラブ近況

### ○写真部

写真部は、現在少数の部員で少しでも写真の技術を身につけようとかんがっている。その成果が昨年の高専祭の展示会と考えてもらえばいいと思います。

最近では、カラー写真の焼き付けの実現、全倍引伸し、技術向上の為に発表会などを行い少しでも良い写真が撮れるようにと試みている。

写真というものは、どこまでいってもきわめることのできない芸術の一つであるので、自分が撮りたいものを撮り、好きなように焼き付ける。そして、自分の信念、感受性を素直に、忠実に写真に再現させる。写真の楽しさ、むずかしさはこれである。写真の魅力は限らない。みんなも、記念撮影だけでなく、写真の本当の楽しさ、すばらしさに触れてみようではないでしょうか。

### ○吹奏楽部

私たちのクラブは、文化系のクラブにおいて伝統あるクラブの一つであると思います。というのはこの吹奏楽部を作る時は先輩方の御苦労がいへんであったと聞いていますし、毎年、行っている定

### ○高周波研究部

高周波研究部は、現在、7・21MHz帯を中心としたQSOや新しいアンテナの設計や製作、又、パソコンを使用したCW(電音)自動解読プログラム・その他無線に関するプログラムを製作しています。又、JARL主催の無線コンテストにも積極的に参加しています。特に1・2年は春のアマ無線国家試験をめざして努力しており、免許保持者も上級アマ無線技師をめざして、がんばっています。

### ○文芸部

三年前に「我が校の文芸の灯を消してはならない」という事で、再興文芸部が誕生し、現在に致っております。途中同好会へ転落したりもしましたが、高専祭に於いては深夜、早期の準備のあいだで、展示及び機関誌「萩陵」も好評を得ました。

先輩の作品の質の高さに迫りつつも、そして、伝統ある部の活動をもっと活かし、先輩達の活躍に負けない様に頑張りたいと思っております。現在、部員数が少し少ないのが悩みですが、志を持つ人は是非文芸部の扉を叩いて下さい。

### ○天文部

御祭りの通り我々の主な活動は夜空の星を観ることにあります。

### ○低周波研究同好会

オーディオとはとくお金のかかる趣味です。それ故なかなか製作などの活動は出来ませんが、毎週土曜には4E教室にて、小規模ながらレコードコンサートを行っています。高専祭の時の様な高価な機器ではありませんが、それなりに聴き応えありです。気に入りの一枚でも持って聴きに来てくださいませんか。今後とも少ない人数ではありますがオーディオの楽しさを少しでも広げたいと考えています。

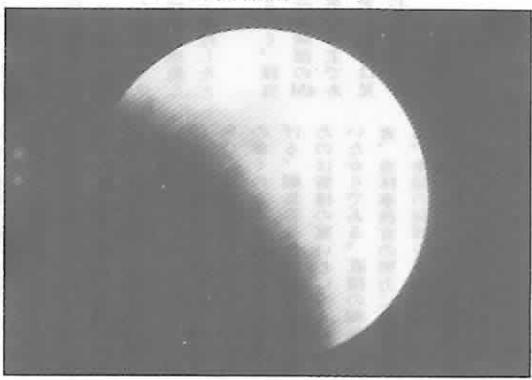
### ○DIY同好会

DIYとはDo It Yourselfの略であり、日曜大工ということであるが、別に大工の真似をしていけるのではなく、その精神でもって、自分達で物を造ろうという会である。現在は、ロボット、キータ、ホバークラフト、ホログラフィ、



(上) 時 化 (写真部)

(下) 月食観測 (天文部)



# 高専祭を顧みて

高専祭は、日頃工学に専念している学生が、秘めたる文科的才能を発揮して、工学と文科の魂を一つにして昇華させる場である。迎えて今年第十三回、晴天に恵まれた十月三十一日、十一月一日の両日間催された。統一テーマ「主体性からの創造」という旗印のもと、今村利弘実行委員長を中心に、全学生が努力団結したかいあって、かなりの充実した内容が得られた。色々な試みがなされたなかで、特筆すべきは、パンフレットを手書きにしたことと安川電機の協力でロボットを展示したこと等であろうか。それから北御門二

## 高専祭ポスター



郎氏を講師に迎えて講演をきいたことも忘れてはなるまい。いずれにしても、文化クラブの学生は、二年に一度のこの機会に、彼らなり年度の成果を見せてくれたし、専門棟は専門棟で、高専の高専たるゆえんを披露して、好評のうちにつつがなく終えられたことは喜ばしいことである。

終了後、教官学生の双方で反省会をもった。学科展示に比べ、一部文化サークルに低迷が見られた、部活動と授業の連繫をはかって、充実を期す必要があるのではないか。また、舞台も種々不都合が多い、もう少しきちんとした舞台設備が欲しい。音楽関係では、練習場と時間の確保の難しさが指摘された。その他、実行委員会と学生会の連絡があとひとつ緊密でなかつた等、多くの示唆に富む貴重な意見がでた。ぜひ、これらを次回の高専祭に生かしたいものだ。

最後に展示催物の一部を記す。文化講演、講師 北御門二郎 産業用ロボット展示 フロベラ模型飛行機大会 四科合同 ソーラ・ハウス 中夜祭

機械工学科 木型、溶接。鋳・鍛造。エンジン分解・組立。旋盤・切削力の測定。ならい旋盤。フライス。歯車実習。手仕上げ。動約合試

荒尾市一中の火災に、一中OBと学生会執行部募金活動に立つ！

荒尾一中の本館校舎が去る十二月五日ほ、全焼した。本校校長は受験前の一中教職員・生徒諸君の心中を察しながら、その火災を望見したとのこと。

この災難に本校も何か救いの手を、と一中OB・学生会執行部が相寄り相談し、十二月九日から三日間正門前で始業三十分前から、教職員全学生に挽金を呼びかけ、協力

をねがった。浄財約四万八千円、後援会のお見舞とも、計約五万八千円を、学校長・学生主事・学生会会長4名、一中OB代表4名が先方にお届けした。後日、学生会宛に、荒尾一中生徒会、荒尾市教育委員会から丁重な礼状が寄せられた。

## 有明高専のちよつといい話

### 高専祭余録

十一月四日のことであつたか、高専祭が無事済んだ安堵と虚脱感に一種の心地よさを感じているとい、話が舞い込んだ。学生係に若い母親の来訪あり、用件は本校吹奏楽部の二人の学生に御礼の菓子折りを渡してくれとのこと。その訳はこうだ。

高専祭直前、練習に部員一同大わらわのある夕方のこと、近所の中学生A君は、宵間に手許狂つて、自転車もろとも、正門前の深い側溝に落ち、怪我をしてしまった。その場を通りかかった二人の学生は素速くA君を助け上げ、練習に来ていた吹奏楽部の先輩に頼んで車でその少年を病院に運び、手当を受けさせ、家まで送り届けた。この経緯を知った母親は、見知らぬ学生の配慮と処置に感動し是非お礼の一言を、と来校したとのこと。

先方の真心を伝えるべく、該当者を調べると、矢張吹奏楽部の4M堀、3C石橋の両君が善行の主であることが判った。両君の親切は見知らぬ少年と母親の心に暖かい灯をともした。

◎この一年本誌のために、様々な角度から御協力いただいた学内外の多くの方々からお礼を申し上げる。編集委員長の役目を果したのには皆様の寛い心に支えられていたからである。直接の編集担当者、当林事務官の努力に拍手を送る。本誌の発展を祈りつ。(学生主事)

## 編集後記

◎本号が56年度最終号となる。巻頭を校長の年頭所感で飾る。ここには本校教育の基本姿勢が述べられている。御家庭の皆様に御一読を。◎やがて、高専祭・体育祭・寮祭など各種の学校行事に活躍した五年生が果立つ。

旅立ちを前に、各科の五年生に学窓を後にするに当たっての感想を寄せてもらった。卒業生諸君の健闘と多幸を祈る。

◎電算機世界を動かすと言えれば余りにも大袈裟であろうか。電算機が研究と教育の中に占める割合は年々増大して行く。そんな話を専門的に少し書いていただいたのが今回の特集記事である。

◎学生会・寮生会・それぞれに新しい会長をおし立てて、本校の発展に貢献しようとしている。学生諸君の理解と協力が何よりの励みとなる。